

ライフケアガーデン湘南

症 例 概 要 利 用 者：90代 女性 要介護4

利用期間 ：2023年 6月 ～ 2024年 9月

主疾患 ：脳梗塞・左上葉結節

経 過 ：

2022年12月に脳梗塞を発症し、A病院に入院。その後、リハビリ目的で湘南慶育病院に転院。退院後に2023年6月当ホームへ入居。翌年6月大腸憩室出血で入院。7月の退院後に急激なADLの低下が見られ、気持ちも落ち込むようになった。栄養管理やリハビリを通じてADLの向上を図り、また、ユマニチュードやイベント、レクリエーションを工夫することで、笑顔が増え、ご家族の切なるご要望に寄り添いご自宅に一時帰宅出来た事例

内 容

ご入居当時から、精神的な脆さはあるものの笑顔が多く、日々レクリエーションを楽しまれお過ごしになられていました。

しかし、2024年6月に血便が確認され、大腸憩室出血と診断され入院。退院後、体重が約10キロ減少し、ほとんど毎日臥床して過ごされ、以前は楽しんでいたレクリエーションへの参加も難しくなり、笑顔が減っていました。ご家族は自宅に一度戻ってあげたいと言われていました。

私たちはこの状況を改善するため、まず、栄養課と栄養補助食品を取り入れ、栄養サポートを強化。介護では口腔ケアを徹底し、食事環境を改善。食事時間には、ご本人のお好きな音楽を流し、リラックスできる時間を提供しました。訪問看護と連携でリハビリを行い、徐々に座位保持が1時間以上可能となるまでに回復し、週に3回のリハビリで進捗を共有しました。

精神的サポートの面では、ユマニチュードを強化し、不安やストレスを軽減。レクリエーション再開に向けて、徐々に「おとなの教科書」や音楽クラブなどへの参加を促進。特にお茶会では、抹茶を点てる際に以前の様に「懐かしいね」と笑顔で話す姿がとても印象的でした。さらにカラオケ等のグループ活動を増やし、他の入居者との交流を深めることで孤立感の緩和も促進しました。徐々にADLが低下していく中でも笑顔の表情が多く見られていたのが印象的でした。

そして9月、ご家族の要望に応えることができ、看護と介護で協力しご自宅に戻ることができました。その際、「あの状況から自宅に戻れて皆さんに感謝しています」とご家族が笑顔で話され、ご本人が安らいだ表情を見せてくださったことは、私たちにとって忘れられない瞬間です。スタッフ一丸となり、支え続

けられたことは大きな学びとなりました。

この経験を通じて、施設理念である「心豊かな生活の提供」をさらに追求し、入居者さんご家族に寄り添い続けていきたいと思っています。